

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成 26 年 12 月 11 日 (2014.12.11)

【公開番号】特開 2013-155462 (P2013-155462A)

【公開日】平成 25 年 8 月 15 日 (2013.8.15)

【年通号数】公開・登録公報 2013-043

【出願番号】特願 2012-18074 (P2012-18074)

【国際特許分類】

D 0 1 F 8/16 (2006.01)

D 0 6 M 15/643 (2006.01)

D 0 4 H 1/541 (2012.01)

【F I】

D 0 1 F 8/16

D 0 6 M 15/643

D 0 4 H 1/54 A

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 10 月 23 日 (2014.10.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

より具体的には、上記課題は、芯成分と鞘成分の重量比が 20 / 80 ~ 80 / 20 である偏芯芯鞘型複合繊維であって、鞘成分が熱可塑性ポリエステルエーテルを含み、繊度が 1.0 ~ 50.0 d t e x、繊維長が 3 ~ 30 mm、捲縮数が 1.0 ~ 20.0 山 / 25 mm、捲縮率が 50 ~ 80 % の機械捲縮を有し、100 以上の熱処理で 3 次元捲縮または型捲縮を発現することを特徴とするエアレイド不織布用繊維によって解決することができる。更に、120 乾熱処理後の捲縮率が 90 % 以上であること、更にエアレイド不織布用繊維の表面に油剤が付与されており、該油剤として、ジメチルシロキサン、ポリオキシアルキレン変性ジメチルシロキサン、または、アミド変性ジメチルシロキサンを 0.15 ~ 0.50 質量 % エアレイド不織布用繊維表面に付与していることが好ましく採用することができる。このような構成を採用する事で、開繊性向上によるスクリーンの通過が良くなり、クッション性、柔軟性、弾性回復性に優れたエアレイド不織布によっても上記発明の課題を解決することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

複合繊維には油剤が付与されていることが好ましく、その付与する油剤として、ジメチルシロキサン、ポリオキシアルキレン変性ジメチルシロキサン、または、アミド変性ジメチルシロキサンを 0.15 ~ 0.50 質量 % エアレイド不織布用繊維の表面に付与していることが好ましい。0.15 重量 % 未満ではエアレイド開繊工程において静電が発生しやすく、毛玉等を起こしてしまう。また、0.50 重量 % を超える場合では油剤による繊維同士の接着性が上がり開繊不良を起こしてしまう。より好ましくはポリオキシアルキレン変性ジメチルシロキサンを用いることである。また油剤付与量としては 0.16 ~ 0.3

0 重量%であることがより好ましい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3】

更にエアレイド不織布用繊維の表面に油剤が付与されており、該油剤として、ジメチルシロキサン、ポリオキシアルキレン変性ジメチルシロキサン、または、アミド変性ジメチルシロキサンを 0 . 1 5 ~ 0 . 5 0 質量%エアレイド不織布用繊維表面に付与していることを特徴とする、請求項 1 ~ 2 のいずれか記載のエアレイド不織布用繊維。